

第10回 文京区地域医療連携推進協議会  
(議事要点記録)

日時 平成29年7月26日(水) 午後1時から

場所 区議会第1委員会室(シビックセンター24階)

<会議次第>

- 1 委嘱式
- 2 部長挨拶
- 3 会長選出
- 4 副会長指名
- 5 部会長指名
- 6 報告・議題

(1) 平成29年度地域医療連携推進協議会等の取組み(予定)について

(2) 「退院支援ガイドブック(仮)」進捗状況について

(3) 地域医療連携推進に関する意見交換

(4) その他

- 7 閉会

<配布資料>

資料第1号 平成29年度地域医療連携推進協議会等年間スケジュール(予定)

資料第2号 「退院支援ガイドブック(仮)」作成検討委員会の取組について

参考資料1 文京区地域医療連携推進協議会委員名簿

参考資料2 文京区地域医療連携推進協議会設置要綱

参考資料3 文京区地域医療連携推進協議会の会議運営等について

<出席者>

武藤正樹会長、田城孝雄副会長、中村宏委員、佐藤文彦委員

三羽敏夫委員、川又靖則委員(岩楯新司委員代理)、汲田伸一郎委員

大川淳委員、高橋和久委員(天野篤委員代理)、齊藤延人委員

松平隆光委員、石原浩委員

<欠席者>

金吉男委員、鳶巢賢一委員、平野浩彦委員

<事務局>

境野健康推進課長、真下認知症・地域包括ケア担当課長

<傍聴者>

2人

## 1 委嘱式

境野健康推進課長（事務局）； 本日は、お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

会議の進行は、会長が行うことになっておりますが、今回、任期満了後、初めての協議会で、まだ会長が決まっておられませんので、僭越ではございますが、私、健康推進課長の境野が、会長が決まります間、司会を務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

席上の会議次第に沿って進めさせていただきます。

それでは、式次第1の委嘱式でございます。

委員の皆様、石原保健衛生部長より、お一人ずつ委嘱状をお渡しいたします。本日、代理出席の方もいらっしゃいますが、代理受領をよろしく願いいたします。

石原保健衛生部長； <各委員へ委嘱状の交付>

## 2 部長挨拶

境野健康推進課長（事務局）； 続きまして、石原保健衛生部長よりご挨拶申し上げます。

石原保健衛生部長； 本日は、大変お忙しい中、文京区地域医療連携推進協議会にご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

今月に入りまして、引き続き暑い日が続いていたところですが、本日は梅雨に戻ったような天気でございます。暑ければ熱中症、気温の変化が続けば感染症に注意が必要であり、健康づくりを所管する私どもとしては、区民の方にそのあたりを周知していかないといけないと思っているところでございます。

さて、本協議会は、平成21年7月に発足し、8年経過したところでございます。委員の先生方には各方面で医療連携についてご協力をいただき、さまざまな成果を出してきたところでございます。「文京かかりつけマップ」や「子どもの救急・急病ガイドブック」等の冊子は、区民の方々に大変ご好評を得ているところでございます。

地域医療連携につきましては、昨年7月に東京都より東京都地域医療構想が示されたところがございます。行政の役割といたしましては、地域の医療体制をしっかりと確保すること、そして地域包括ケアのシステムの構築に向け、在宅療養の取組みをより主体的に推進することが明記されています。

また、医療介護総合確保推進法で、介護保険事業計画と医療計画の整合性が求められており、在宅医療検討部会で在宅医療に関する具体的な課題や多職種連携についてご議論いただき、昨年度、「地域における医療・介護の連携に関する現状と課題、解決に向けての取組み案」としてまとめたところがございます。

さらに、介護保険法に規定の「在宅医療・介護連携推進事業」につきましては、平成30年度からの区市町村完全実施に向けて準備が必要となっているところで、地区三師会をはじめ、医療機関の皆様のご協力を得て、緊密に連携をしながら、体制を整備していきたいと思っております。

本協議会で、地域医療に係るさまざまな課題について、ご検討、ご議論いただいておりますが、引き続き、区民がいつまでも住み慣れたこの文京区で暮らし続けていけるよう、皆様のご協力、お力添えをいただきながら、推進してまいりたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

境野健康推進課長（事務局）； それでは、会議を続けてまいります。

<出席状況報告>

今回新たに委員になられた方もいらっしゃいますので、委員の皆様から一言ずついただきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

武藤委員； 国際医療福祉大学大学院の武藤と申します。初回から委員として参加させていただいております。まさに文京区の地域包括ケアの中核的な役割を果たすこの地域医療連携推進協議会、大変期待しておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

石原委員； 保健衛生部長の石原でございます。地域医療連携につきましては、先ほども申し上げましたように、関係者の皆様には大変お世話になっているところがございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

汲田委員； 日本医科大学付属病院院長の汲田でございます。前期から委員に就任しておりますが、所用と重なってしまい、今回が初めてでございます。当院は、改築の真最中でございますが、おかげさまで工事も順調に進んで

おり、8月9日に竣工、引き渡しになります。これからも文京区の医療のために真摯に対応していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

大川委員；東京医科歯科大学医学部附属病院病院長の大川でございます。従来、医科歯科は必ずしも地域医療を得意とする分野ではなかったかと思いますが、ここ数年、地域医療懇談会という形で年に1回、先生方にお集まりいただきまして、当院の地域医療に対する貢献について検討しているところであります。大学病院として現場にうまく対応できるかという問題があるかと思いますが、一層努力するつもりでありますので、よろしくお願いいたします。

高橋委員；順天堂大学医学部附属順天堂医院副院長の高橋でございます。院長の天野が所用で欠席のため、代理でまいりました。少しでも文京区の医療の発展のために貢献する所存でございますので、何とぞよろしくお願いいたします。

齊藤委員；東京大学医学部附属病院病院長の齊藤でございます。私どもも昨年ぐらいから地域医療により一層力を入れていくようにしてまいりましたので、こういう機会を通して、より進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

松平委員；日本小児科医会の松平隆光と申します。30年くらい前から文京区で小児科を開業しておりまして、小児初期救急医療検討部会の部会長をさせていただいております。文京区は非常に医療資源に恵まれておりますが、小児の時間外診療で大学病院の先生方にご負担をおかけしている現状があり、このままでいいのかどうかという議論が部会の中で起こりまして、将来的には文京区でも小児初期救急医療施設を設置する方向で意見がまとまりました。どうぞよろしくお願いいたします。

三羽委員；文京区歯科医師会の三羽でございます。10年ほど前に初めて地域包括ケアという言葉聞いたときは、雲をつかむような話で全く意味が通じておりませんでした。当時は、一方通行の医療連携でしたが、双方向の医療連携を目指し、地域包括ケアにおいて歯科医師会ができることは結構あるということがわかり、小石川歯科医師会の佐藤会長とともに、模索しながら区民のために尽くしていきたいと頑張っているところであります。よろしくお願いいたします。

佐藤委員；小石川歯科医師会の佐藤と申します。三羽会長がお話しになったように、まさに歯科医師会の地域包括ケアでどういったことができるかということを三羽会長と行っているところでございます。また、都立病院、大学病院の皆様とも医療連携を今後も進めていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

中村委員；小石川医師会会長の中村宏でございます。よろしくお願ひいたします。地域医療連携ということで、一番我々が頑張らなければいけないところであり、この機会に各論の一つを紹介させていただきます。

文京区休日診療当番医として、文京区医師会と小石川医師会から輪番制で4つの医院がプライマリ・ケアを行っています。文京区は医療資源がすぐれているはずなのですが、プライマリ・ケアから2次救急に搬送するときの手段がまだまだ遅れているように思われます。先日、小児の顳上骨折があり、休日当番医が区内の4大学病院、都立病院に電話したのですが、つながらない、あるいはつながっても整形外科の先生が不在か手術中ということで断られ、約1時間、受け入れ先を探したという事例があります。私としては、こういうことは極力避けたいことで、なぜこのようになったのかを検討し、病院の体制や搬送の仕方など、協議していければと考えております。また、現場からの細かい意見をなるべく上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

田城委員；放送大学の田城と申します。在宅医療検討部会の部会長を務めています。部会では在宅療養後方支援病院として、JCHO東京新宿メディカルセンター、東京都立大塚病院、医療法人社団大坪会東都文京病院、公益社団法人東京都教職員互助会三楽病院と協定を締結しています。かかりつけ医の要請に基づき、可能な限り患者の入院受け入れをするもので、在宅医療に関してそのような連携を確立しているという成果があります。

私は消化器内科医で内視鏡医だったのですが、東大病院で、国立大学で初めて正式に認可された医療社会福祉部の立ち上げにかかわった後、日本医師会総合政策研究機構の主任研究員を経て、順天堂大学の公衆衛生学講師という経緯をたどっております。日本医療・病院管理学会等で4大学全てにお世話になっており、この文京区地域医療連携推進協議会ができた当初からかかわらせていただいております。

文京区は、在宅医療の医療連携に関しまして、先進地域の一つだと思います。先ほど中村委員から提議がありましたが、私も医療連携を専門としている者として、ぜひ検討させていただきたいと思っております。今後とも先生

方のご協力を得ながら進めさせていただければと思います。

川又委員；薬剤師会の川又でございます。地域医療連携について、薬剤師会、  
歯科医師会、医師会、各病院の連携を図りまして、今後とも進めていきたく  
と思いますので、よろしく願いいたします。

境野健康推進課長（事務局）；ありがとうございました。次に配布資料の確認  
をいたします。

<配布資料の確認>

### 3 会長選出

境野健康推進課長（事務局）；それでは、式次第3の会長選出でございます  
が、参考資料3「文京区地域医療連携推進協議会設置要綱」の第5条第2  
項の規定により、「会長は、委員の互選により定める」とございます。ど  
なたか、お願いできますでしょうか。

田城委員；武藤正樹委員が適任だと思いますので、ご推薦いたします。

境野健康推進課長（事務局）；ありがとうございます。

田城委員から、武藤委員が推薦されました。ご異議がない方は、挙手  
をお願いいたします。

<挙手>

全員挙手いただきましたので、武藤正樹委員が会長に選任されました。  
以後の進行は武藤会長をお願いいたします。

武藤会長；推薦していただき、ありがとうございます。

皆様のご協力を得まして、円滑な議事運営に努めてまいりたいと思います。

### 4 副会長指名

武藤会長；それでは、次に式次第4の副会長指名ですが、先ほどの要綱第5  
条第4項により、「副会長は会長が指名する」となっております。

副会長には、放送大学教授の田城委員をお願いしたいと思いますが、い  
かがでしょうか。

<拍手>

田城副会長；今後とも武藤会長のもとで、文京区民の皆様のために頑張っていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

## 5 部会長指名

武藤会長；それでは、次第5の部会長指名について、事務局から報告をお願ひしたいと思います。

境野健康推進課長（事務局）；部会長の指名につきましては、要綱の第6条第5項により、保健衛生部長が指名することになっております。

指名結果をご報告いたします。

まず、小児初期救急医療検討部会長は、松平委員にお願ひいたします。

高齢者・障害者口腔保健医療検討部会長は、本日欠席でございますが、平野委員を指名させていただきたいと思ひます。

在宅医療検討部会は、田城委員にお願ひいたします。

なお、各部会委員につきましては、参考資料1「文京区地域医療連携推進協議会等委員名簿」でご確認ください。

武藤会長；ありがとうございます。

## 6 報告・議題

武藤会長；それでは、次第の6議事に入る前に、まず、本協議会の会議運営等について、事務局から説明をお願ひします。

境野健康推進課長（事務局）；会議の運営方針につきましては、第1回の本協議会でご確認、ご了承いただいたものにより引き続き進めてまいりたいと思ひます。

<参考資料3の説明>

武藤会長；当協議会の会議運営等につきましては、事務局から説明のありました内容でご確認していただき、特にご異議がなければ、会議運営等については報告のとおりとさせていただきます。

それでは、議事の（1）「平成29年度地域医療連携推進協議会等の取組

み」について、事務局から報告をお願いします。

境野健康推進課長（事務局）；＜資料第1号の説明＞

武藤会長；ただいまの報告について、ご質問等はございますか。

＜特になし＞

武藤会長；では、次に議事（2）「退院支援ガイドブック（仮）」進捗状況について、事務局から報告をお願いします。

境野健康推進課長（事務局）；＜資料第2号の説明＞

武藤会長；ただいまの報告について何かご意見はありませんでしょうか。

＜特になし＞

武藤会長；次に議事（3）「地域医療連携推進に関する意見交換」ですが、初顔合わせということもございますので、皆様方から現在抱えている課題や地域医療連携についてのお考えや、各検討部会へのご要望などがありましたら、ご意見を伺いたいと思います。

先ほどご意見をいただきましたが、中村委員から順番に、お願いします。

中村委員；先ほどの続きですが、休日診療当番医は、内科と小児科が多く外科が少ないです。そのような状況で、小児の顛上骨折疑いで来院があり、4大学・都立病院に電話したものの受け入れがかなわず、千代田区の病院に搬送したいいきさつがあります。整形外科開業医に聞いてみたところ、なかなか病院で受け入れてもらえない、患者を受け入れてもらうまでに時間がかかったという話を多く聞きました。文京区は医療資源が多いと言われていますが、逆にあるからゆえに、他の病院をあたってみてほしいと言われることがあるように思います。

医師会もプライマリ・ケアを持っておりますので、休日でも何とか病院と連携を取ろうと思うのですが、例えば医療連携室の受付は平日のみなど、搬送に関してうまく連携をとることができていません。休日当番医からの連絡は、電話交換手の方が特別に回してくれるなど、休日当番医からの連絡をうまく組み入れて、連携できるような院内体制の構築を検討いただければと思います。院長先生方から現場の先生方にお伝えいただき構築していくためには、個々の症例から上げていかなければいけないと思い、お話をさせていただきました。



武藤会長；やはり症例が大事ですね。この件につきまして、松平委員、何かありますか。

松平委員；私は東京都小児医療協議会に出席しておりますが、東京都は小児救急が二次、三次、その上に東京都こども救命センターと分かれています。昨年1年間の小児救急の事例をまとめたところ、東京ルールが適用できなかった事例で一番多かったのが、小児の骨折で60例ほどありました。その対応について議論が行われ、整形外科医が常駐している、麻酔科医がいるなどの条件を当てはめていくと、最終的に小児の骨折は、東京都こども救命センターである4病院で受け入れていただかなくてはならない現状があることがわかり、東京都でも受け入れ体制の整備について検討をはじめています。

武藤会長；次に、小石川歯科医師会の佐藤委員をお願いします。

佐藤委員；先ほどもお話ししましたが、文京区歯科医師会と、在宅歯科医療の相談窓口の設置について協議しています。歯科医師会で、在宅歯科医療を行っている医院がどこなのか、その医院が会員か非会員かというのもわかりにくいところがあり、医科の先生方も歯科医師会の在宅医療にどうつなげていけば良いのか、まだわからないと思います。

現在、健康推進課と両会で地域包括ケア歯科相談窓口の設置を検討しているところです。内容として、窓口を一元化し、文京区民や利用者からご連絡があった場合、在宅医療を行っている歯科医師を紹介する。また、大学病院との連携、例えば、がん患者さんの周術期の口腔ケアなどについてつなげていきたいと考えております。ただ、会員の先生で在宅歯科医療を専門にしている方は少なく、どちらかというとなんか非会員の先生のほうが多いので、そのあたりの体制づくりが今後の検討課題だと思っています。以上です。

武藤会長；引き続きまして、三羽委員、よろしくをお願いします。

三羽委員；地域包括ケア歯科相談窓口については、小石川歯科医師会の佐藤会長の言われたとおりで、両会で力を合わせて何とか進めていきたいと思っております。それに加えて、歯科医師会の会員で在宅療養者等歯科訪問健診・予防相談指導事業の協力医や、周術期の登録医や訪問歯科診療の協力医などについて、「文京かかりつけマップ」や「退院支援ガイドブック」

などに、何らかの形で盛り込めればと考えております。そうすれば、患者さんは自分がどこの医療機関へかかればいいのかが目瞭然になりますので、区側にも検討していただきたいと思っています。

先日、日本医科大学の懇親会に出席させていただきました。文京区の在宅療養者等歯科事業の協力医や周術期口腔診療に携わっている先生のリストを提出させていただきました。各大学病院、都立病院へもリストを少しずつブラッシュアップして出していき、ご協力をお願いしたいと思っています。よろしく申し上げます。

武藤会長；川又委員、お願いします。

川又委員；退院支援に関しまして、在宅に戻る際、地域の薬剤師が入院中の服薬状況を把握し、在宅での服薬を引き続いて管理することが重要であると言われております。薬剤師会の理事会でも、在宅療養を支援するうえで、病院と診療所の連携をきちっとやっていると、国の方針でもある在宅療養になかなか結びつかないという話がありました。薬剤師会としても、入院中の服薬状況の把握などをしていくことで、退院時の連携ができるとういと思っています。ありがとうございます。

武藤会長；次に、松平委員お願いします。

松平委員；小児初期救急医療検討部会は「子どもの救急・急病ガイドブック」を作成しております。非常によくできていると思いますが、区民の方に十分周知徹底してない、あまり利用されていないことがあるのではという意見もあり、活用についてはこれからの課題になると思います。

もう一つは、先ほどお話ししました小児初期救急医療施設でございます。文京区は医療資源に非常に恵まれていて、区民の方々から困っているといった声は聞かないのですが、軽症のお子さんが夜間に大学病院を受診する現状があり、大学病院の先生方から非常に負担がかかっているというご意見を頂いております。豊島区では、都立大塚病院の中で「豊島こども救急」を実施しており、そこを受診する患者さんの3分の1ぐらいは文京区の方です。これらの現状を踏まえますと、財源の問題や人材の問題がありますが、将来的には文京区でも小児初期救急施設を設置できたらと思いますし、部会の検討結果でも同様のご意見でまとまっています。以上でございます。

武藤会長；次に、齊藤委員お願いします。

齊藤委員；東大病院は、新しい入院棟の建築中ですが、もうすぐ完成します。

来年1月に開院し、そこでは、小児の集中治療等も含めて充実する予定になっておりますが、並行して改修も行いますので、全て利用できるようになるのは約1年後になります。また、段階的にはなりますが、小児科医を増やすなどの対応も同時に図っていきます。ご指摘いただきました小児の骨折は、恐らく整形外科が対応していかないといけないと思いますが、その点につきましては持ち帰りまして、協議してみたいと思います。以上です。

武藤会長；次に、高橋委員をお願いします。

高橋委員；当院は、本郷キャンパス再建プロジェクトが進行中でございまして、病棟は、ほぼ完成形に近づいております。2020年には研究棟が完成予定となっております。

本日は当院として力を入れていることに関して少しご紹介したいと思います。

医療連携につきましては、年に2回「順天堂医院 医療連携を共に考える会」を開催しております。毎回120名以上の先生方にお集まりいただいておりますが、それだけでは充分ではないだろうということで、地域の先生方に参加いただいて、在宅医療へスムーズに移行できるよう「在宅医療を共に考える会」を立ち上げています。

また、逆紹介率を上げることに力を入れておりまして、現在72%まで上がっております。目標値は80%ですので、急性期を過ぎた患者さんを、一人でも多く地域の先生方にお戻しするようにしております。

救急につきましては、二次・三次救急を担っておりまして、ホットライン応需率が最近88%ぐらいまで上がってきておりますが、何とか100%、少なくともまずは受ける形にしていきたいと思います。診療科につきましては、やはり整形外科の応需率が若干低いです。担当医が手術中であつたり、開放性骨折になりますと、休日は処置が難しいこともありますが、当直体制を見直し、整形外科の応需率も80%を超えるぐらいまで上がっております。先ほど中村委員から提起されたことがないよう、当院としても今後対応していきたいと考えております。以上でございます。

武藤会長；次に、大川委員をお願いします。

大川委員；整形外科の事案が問題になっておりますが、私は整形外科医ですので、実際の救急受け入れについて申し上げます。当院にも救命救急セン

ターがございまして、救急車で搬送される方は全て受けることになっています。しかし、救急車ではなく、徒歩あるいは車などで来院した患者さんは、ウォークイン外来になり、受けるのは、診療科ごとの担当医になります。その担当医が診療中あるいは手術中であつたり、麻酔科医が他の急患を診ている場合、小児の骨折で手術が必要なケースはお断りせざるを得ないということがあるかもしれません。東大病院、順天堂医院でも検討されるということですので、持ち帰りまして、診断だけでもできるようになるのかなどを検討したいと思っております。

武藤会長；次に、汲田委員をお願いします。

汲田委員；当院では、整形外科で受け入れができなかった事例もございました。先日の連携会議で対応について提案があり、直通ダイヤルを設け、看護師が24時間待機し受付対応をします。骨折の場合で整形外科が受け入れできないときなどは、外科系は救命救急センターが、内科系は総合診療科が受け入れる体制を構築いたしました。

紹介率については、85%ぐらいでございまして、逆紹介も力を入れておりますが、63~65%ぐらいです。その理由の一つとして、救命救急センターで受け入れた患者さんを地域に戻すことが難しいケースがございまして。逆紹介でなかなか後方支援病院が見つからない、例えば、リハビリが必要な患者さんのケースで脳梗塞等のリハビリは受けられるが、整形外科術後のリハビリは受け入れられない。また、循環器系に関しては、心不全で呼吸管理が必要なケースは、受け入れが難しいという病院が多いです。文京区に関しても病病連携をとれるツール、例えば呼吸管理の可否や空きベッド数などがわかるようなツールができると非常にありがたいと思います。よろしくをお願いします。

武藤会長；心不全の患者さんが増えているというのがありますが、後方支援病院で受け入れてくれるところがない現状があり、連携が進まないのが問題になっていますね。

石原委員から何かございますか。

石原委員；地域医療連携の取り組みについては、本協議会が立ち上がって8年になります。地域の医療資源は非常に豊富ですが、特に大学病院等におきましては、対象が必ずしも文京区民だけではなく、場合によっては全国区というところもございまして。そのような中で、いかに密接な連携関係を築くかということが非常に重要であると思っております。さまざまな役割

の中で、あるいはスタッフの中で顔の見える関係ができればいいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

武藤会長；最後に田城副会長よりお願いします。

田城副会長；地域医療連携推進協議会は、高度先進医療機関の5病院の院長先生にご出席いただいております、問題提起がされますとその場で責任のある方に対応していただけます。本日も中村先生の問題提起に対して、ご意見をいただいたということで、この会の意義としては非常に高いと思います。

後方支援病院は、急性期病院にとっては非常に重要です。退院後のネットワークとして、5病院の医療連携室が持っている様々なルートも共通して運用できるようになるといいと思っております。電子カルテも同種類を使用していますので、そういう意味では、今後展開する可能性もあるのではないかと思っております。

平成30年の診療報酬・介護報酬の同時改定で、来年度以降さらに早期退院と医療連携に一段と拍車がかかっていくのではないかと思います。

心不全の方については、先週末に日本心臓リハビリテーション学会があり参加しました。医療連携パスを利用している虚血性心疾患の方は50～60代の男性が多かったのですが、心不全の患者さんの平均年齢は80歳で女性が多く、新しい方々が対象だということがわかってきて、なるべく在宅医療で受け入れられないかという方向になっております。

皆様のお話を聞いた感想は以上です。

武藤会長；さまざまなご意見、ありがとうございました。

議事（4）その他につきまして、何かございますか。

田城副会長；在宅医療助成勇美記念財団の助成金を受けまして、放送大学と文京区の共催事業として、9月9日に文京区民センターで講演会、地域貢献特別プロジェクト「在宅医療と地域包括ケアシステムの推進」を開催いたします。厚生労働省老健局振興課の方に基調講演をしていただき、在宅医療の先進地域である横須賀市から市役所の方、医師会の先生、薬剤師会の先生、訪問看護ステーションの方にご登壇いただき、シンポジウムを行います。

武藤会長；ありがとうございます。

本日は大変、有意義な意見交換ができたと思います。今後も引き続いて、この文京区の地域医療連携推進について検討、協議をお願いしたいと思

ます。最後に、今後の予定について事務局からお願いします。

境野健康推進課長（事務局）；本協議会は、おおむね1年に2回程度開催しております。

部会も開催予定でございますので、部会で検討した内容等も次の協議会でご報告をさせていただければと考えております。

先ほど田城先生からお話がありましたが、放送大学と文京区の共催事業で講演会を9月9日に開催いたします。よろしく申し上げます。

武藤会長；ありがとうございます。

## 7 閉会

武藤会長；それでは、これで閉会いたします。ありがとうございました。